

■ セバレートタイプの豪華ステレオ “DPF-10” “DPF-7800”

音の入口から出口まで、すべて最高級ハイファイパーツを採用したプロ級設計のステレオである。

ステレオ“DPF-10”は、入口のプレーヤーには4極シンクロモーターに30cmアルミダイカストのターンテーブルを使用し、メカニカルな軽針圧スタティックバランス形パイプアームと性能的にもプロ級である。またピックアップアームの昇降装置にはソフトエンベージョン（オイルダンブ方式）を採用しデリケートな針先をいためない。

心臓部のアンプは、出力40Wと余裕のあるものである。FMチューナーには双4極管6C9を使用して感度を上げ、マルチマチック（FMモノステレオ自動切換）のアダプタを内蔵している。出口のスピーカには低音25cm中音9cm高音6.5cmの密閉形3ウェイシステムで、歯切れのよい再生音が得られる。キャビネットにはチーク材を使用し高級家具調デザインである。その他ヘッドホンジャック、DIN規格のテレコ録再端子など付属回路も万全である。

ステレオ“DPF-7800”は出力段にはSRPP方式を採用した。これはダンピング特性のすぐれた、ひずみの少ない回路である。そのうえ6スピーカを備え20Wの大出力と相まって、華麗な音の拡がりを楽しみいただける。プレーヤーにはすべての動作を機械が行なうフルオートプレーヤーを使用しているため、お子様でも簡単に操作できる。またステレオアダプター（MA-30）の接続で臨場感あふれるFMステレオ放送も楽しみいただける。

キャビネットはフォールディングドア採用のオープンポア塗装の北欧家具調デザインである。



図17 日立ステレオ“DPF-10”



図18 日立ステレオ“DPF-7800”

……編集後記……

「高温ガスタービンの翼冷却実験」では、日立製作所日立研究所における高温ガスタービン研究の一環として行なわれた、ラジアルガスタービンの翼冷却実験について貴重な実験結果を報告している。

すなわち、比較的少量の冷却水量によって有効に翼冷却が達成できることを確かめるとともに、水冷翼タービンの設計に必要な所要冷却水量をガス温度、タービン回転数、翼制限温度の関数として表わした実験式を求めることに成功している。

原子力発電所において、最悪の事故が発生しても炉心に内蔵される放射性物質の飛散を抑えることができるように、原子炉系全体を包み込む格納設備が設けられるのが普通であり、日立製作所においてはこれら格納容器に対する真剣な研究が行なわれている。

「原子炉格納容器の解析」では、仮想事故時に生ずる格納容器内

圧を求め、設計圧力を決定する解析方式について紹介しており、貴重な文献資料である。

複雑多岐化する現代社会のメカニズムにあつては、ガス、水道を始め、きわめて広い範囲に「配管」の果たす役割は重要であり、例えていうならば、人体における血管の働きを上まわるものがある。

本号の特集は、「マニプル継手の使用範囲に関する一考察」「日立製バルブの流通特性」「弁用ブランドパッキンの緊密さ」など6編の論文を収録し、「配管材料特集」を掲載した。

幾多の技術的進歩を遂げてきた配管材料技術の集大成として、貴重な文献資料となる。

巻頭の一家一言には、東京瓦斯社長 本田弘敏氏より「配管材料に関する技術随想」と題する玉稿をいただいた。ご多忙を極めるおりににもかかわらず、特に本誌のために稿を草されたことに対し、深堪なる謝意を表す。

日立評論 第48巻 第7号

昭和41年7月20日印刷 昭和41年7月25日発行

(毎月1回25日発行)

<禁無断転載>

定価1部150円(送料24円)

© 1966 by Hitachi Hyoronsha Printed in Japan

乱丁落丁本は発行所にてお取りかえいたします。

編集兼発行人
印刷人
印刷所
発行所

伊藤 康博
本間 博
株式会社日立印刷所
日立評論社

東京都千代田区丸の内1丁目4番地
電話 東京(270)2111(大代)

振替口座東京71824番
株式会社オーム社書店
東京都千代田区神田錦町3丁目1番地
振替口座東京20018番 電話東京(291)0912

取次店

広告取扱店 株式会社 日盛通信社 東京都中央区銀座西7丁目3番地 電話 東京(571)5181(代)